もったいないからありがとうへ

特定非営利活動法人フードバンク京都
〒615-8141
都府京都市西京区桂原平田町14-31
電話075-201-9291 / 080-2741-1646
1fbkyoto@gmail.com
https://www.foodbankkyoto.com/
理事長　高畠 由美

第7号 2022.10.15

変わりつつある意識

フードバンク京都 理事長　高畠 由美

最近は、フードドライブと呼ばれる、家庭からの寄付食品を持ち寄る取り組みが盛んに行われています。フードドライブは誰でも簡単に協力・参加することができます。しかも成果が目に見えて非常に分かりやすいことから達成感も感じられ、会社や学校・各種イベントでは、定番のイベントとなっているところもあります。

これまで日本の寄付に対する意識は、欧米に比べるとかなり低かったように思います。そもそも“寄付”という言葉自体、日常生活で余り馴染みもなく、「裕福な人が行う特別な行為」だと感じてきました。しかし現在では、SDG´s(持続可能な開発目標)への取り組みが各所でなされ、その広がりに伴い、これまでの視点を越えて他者への配慮を含んだ広域な思いやりを示す人が増えているように感じます。

今や、どの年齢層であってもフードドライブの食品寄付は、“ちょっとおすそわけ”といった日常的な風景の中に溶け込み、特別感はなくなってきているように感じます。そしてフードドライブを活用される方の思いもさまざまです。困っている人がおられるなら差し上げたい！フードロスになるのは勿体ない！社会奉仕に関心がある！など、フードドライブのPRに自然に心が動き、食品を寄せてくださっています。このように新しい発想、新しい選択肢が自動的に奉仕につながり、徐々に賛同を得て当たり前化するのは、何とも心地の良さを感じます。

つまり、「誰もが誰かのためにアクションを起こしていこう」といった意識にシフトを変えていっているのでしょう。

フードドライブは、誰でも簡単に協力・参加でき、双方の思いを成就させるスグレモノです。寄せられた食品は必ず誰かを支えています。

さぁどうぞ！私たちは、いつでも皆さんの協力・参加を大歓迎しているのです。

CONTENTS

「変わりつつある意識」
フードバンク京都 理事長　高畠 由美
「いのちと信頼をつなぐフードバンク」
健康よろずプラザ 青木 章　中嶋 陽子
「子どもたちを思うお弁当」
ちいさな子ども食堂　柴 美喜子
「橋渡しのお手伝い」
スタッフ　ハーパー ジュリア
「繋がり～コミュニティの一員に～」
スタッフ　ナディラ アヴィシナ
■ 新規フードドライブぞくぞく増加中！
■ フードドライブ実施中！
■ シンカブルで寄付受付け中
■ 月刊経営情報誌『MASTERS』に掲載
■ 第一学院高校にて三名が講演
■ SOSの現場から
■ アンケート紹介
■ 活動実績・提供元様
■ 私たち遂に引っ越ししました！
■ 畑だより
■ 編集後記

フードバンク京都のSNS

1FBKYOTO Instagram

facebook

いのちと信頼をつなぐフードバンク

健康よろずプラザ　青木 章　中嶋 陽子

健康よろずプラザは、毎月一回、京都駅のかたわらで路上生活者に「弁当」をお渡しし、十数人の方が来られます。その際、フードバンク京都さんから頂いた食品を同時にお配りします。当会が準備するお弁当は1食分なので、フードバンクさんから頂く品々に、皆さん大変助けられています。

水さえあれば食べることのできるアルファ米が人気です。お菓子類やジュース、コーヒーなど、袋一杯につめこまれた食べ物や飲み物が、皆さんの命をつないでいます。

健康よろずプラザの中心メンバーは、医療福祉系など十人余りからなる任意団体で、十六年前から活動しています。コロナ禍のここ三年は、前述の取り組みに変更し、また短時間ですが、いろいろな相談にも応じています。

コロナ以前は、年に一回、歯科・医科・法律・福祉等、市外の専門家の協力も得ながら、総合相談会を行ってきました。これには、路上生活から脱した人も含めて数十人が来られます。また、月一度のサロンやクリスマス「望」年会も、開催してきました。望年会では、当会以外の方々の協力も得て、衣料品や手料理、温かい味噌汁などを提供します。食事の後は、ライブやビンゴゲームなどで、楽しいひと時を共に過ごします。そして、この望年会やサロンの時にも、フードバンクさんからの品々が活躍します。

往時に比べると、法令の成果もあって路上生活者の数は激減、ＮＰＯ系の支援や施設も一定整備されました。今後も、コロナ禍とはいえ、食を通じて得た信頼関係を大切に、いろいろと試行錯誤を重ねたいと思います。困窮状態の広範化は進行していますので、任意団体にできることは何なのか、自問自答は避けられないと感じます。

コロナの1日も早い終息を念じております。

子どもたちを思うお弁当

ちいさな子ども食堂　柴 美喜子

二〇二二年十一月から中京区の朱八学区の民家で「ちいさな子ども食堂」を始めています。

大きな目標は「子どもたちの安心できる居場所を作ろう」というものですがコロナ禍のもと今はお弁当のテイクアウトのみの活動になっています。

毎月第四土曜日の十一時から開いていて売り切れ次第終了。子どもから学生までが百円、大人は五百円、誰でも利用できます。現在では毎回百名を超える利用者がありこれまでに延一九八五名の方が利用されました。子どもの利用は一〇二十四名です。「いつおいしいごはんをありがとう」と喜ばれていて、子どもたちだけで利用する人たちも増えています。

フードバンク京都の高畠さんには始めるときから相談に乗っていただき、それ以来、毎回たくさんの食材を支援してもらっています。いただいた野菜、調味料、米などを中心に肉や生野菜を買い足して、カレーや焼き鳥丼などを作っています。毎回赤字になりますが個人の方からのカンパなどで何とか続けてきています。フードバンクさんからの支援がなかったら成り立たず、感謝しており、畑の作業や配達のボランティアで支えておられる方々にも頭が下がる思いです。

取り組んでいるのは京都中・右京健康友の会のメンバーが中心となり近所の主婦などスタッフ十八人の実行委員会によって運営されています。子どもたちのために何かできたらと思いもかけないところから物やカンパやお手伝いの支援・協力があり、子どもをめぐる危機と社会的な期待の大きさを感じています。地域の子どもたちを思っている大人たちの輪が広がり、少しでも子どもたちに伝わればと思っています。

橋渡しのお手伝い

スタッフ　ハーパー ジュリア

ボランティアのハーパージュリアです。英語で届いたメールに返信すること、フードバンクと京都の外国人コミュニティとの橋渡しをしています。食糧支援をすることで、フードバンク京都はふるさとや家族と離れて暮らす外国人の心と物の両面で支援をしてきました。また、日本に住む多くの外国人は、自分を住んでいる地域社会の一部と感じ、貢献したいと思っています。そのお手伝いができればと思います。

以下は、一部の提供を受けた外国人とボランティアの声です。

フードサポート受給者（South-East Asia）

ここ数ヶ月の食糧関連のご支援に感謝いたします。提供いただいた食料は、経費の削減だけでなく、精神的、感情的な支えにもなりました。短いながらもフードバンクとの出会いは感謝とともに永遠に私の心に残るでしょう。

仕分けボランティア Via（Indonesia）

たまたまニュースでフードバンク京都の存在を知り、留学中に自分が住むコミュニティの活動に参加したいと思い、約一年間ボランティアをしました。最初は何も分からず、皆様の助けのおかげでスムーズに作業できました。とてもやりがいのある活動で、地域の人、困っている人のために少しでも自分が貢献できたことを嬉しく思います。

仕分けボランティア Anienta（Indonesia）

一年間フードバンク京都で活動して自分がコミュニティのために役立っていることはとても有意義な経験になりました。少し困っているのは言語の壁です。暑い中や寒い中でも仕分けの作業をしていますが、食料品支援を必要としている人たちが自分たちが仕分けした物を受けとっていると想像してやりがいを感じています。

繋がり～コミュニティの一員に～

スタッフ　ナディラ アヴィシナ

こんにちは。約一年間、仕分けのボランティアとして活動していましたインドネシアからの留学生のナディラです。二〇二〇年、コロナ感染拡大で一時制限された行動や人との交流、二〇二一年に突入してようやく追い風が吹き、「新しい生活様式」、感染防止をしながら新たな日常が定着しつつありました。しかしながらコロナ禍によって長期化した経済活動の自粛に生活上の困難や課題を抱える人は依然として増加しています。そうした中、テレビの取材ドキュメンタリーで食料を必要な人に届け、生活を支える「フードバンク」の存在を知り、その活動に興味を持ちました。今こそ社会課題に取り組み、感染拡大を予防しながら、自分も何かしらできること、アクションを起こしたいと思い、京都で同じ活動している組織を探して「フードバンク京都」を見つけました。また、日本での留学生活の中で、できるだけ人と交流を図り、地域の繋がりづくりをしたいという思いもあったことが、活動を始めたきっかけの一つでもありました。

同じ志の友人と一緒に二〇二一年の夏に活動をし始めました。最初は右も左もわからずでしたが、他のスタッフやボランティアの皆さんたちに支えられながら三～四回あたりの参加でようやく作業に慣れました。一つ一つの食品の賞味期限チェックと賞味期限ごとに食品を仕分けする作業は丁寧さや集中力と時に力業が必要です。わからないことがあればすぐに対応してくれて、休憩時に他のボランティアさんとお話しする機会もあり、皆さん本当にフレンドリーに話しかけてくれて、そのおかげで一年間ボランティア活動に楽しく参加することができました。そんな優しさに溢れるボランティアの皆さんのおかげと抜群なチームワークで色々な方々から寄付していただいた大量の食品をあっという間に終わらせました。仕分けは裏方の作業で決して目立たないですが、社会改善の担い手の一つで、その他

の分野の作業も同じです。その一員になった自分ももちろん、「フードバンク京都」のスタッフや他のボランティアのみなさんを誇りに思います。

大学卒業と同時にボランティア活動も卒業し、帰国します。しかし「フードバンク京都」での活動経験や繋がりはコロナ禍で限られた中でも色々な出会いや刺激的な一年間となり、決して忘れません。今までありがとうございました！

フードどらいぶ ぞくぞく 増加中！

フードバンク京都の地道な開拓が実りつつあります！
今回は新たにフードドライブをはじめてくださった2つの施設をご紹介します！

コープにしがもさんと**コープきぬがさ**さんです。

どちらも京都市内の北に位置し、前回ご紹介したコープ下鴨さん同様、フードロスや貧困など社会問題にも関心の高い地域です。

第一土曜と翌日曜

KYOTO COOP コープにしがも

北川 香織 店長

京都市北区大宮北椿原町54-2
☎075-492-1010

「回を追うごとに集まる量が増えています。」と北川店長。中には寄付用の食品をお店で買って、それを入れてくださる方もおられるとのこと。「こういった取り組みは本当に良いと思うので、本部からフードドライブの話があった時はすぐにやろうと決めました。」と嬉しいお言葉！ありがとうございます。

第一土曜と翌日曜

KYOTO COOP コープきぬがさ

河野 達哉 店長

京都市北区平野宮北町23
☎075-467-0300

「寄付してくださる主な年齢層はやはり年配の方が多いと思います。」と店長の河野さん。フードドライブ実施日の土日は来られないからと、前日に預けに来てくださる方もおられるそうです。「回を重ねるごとに認知度も高まってきていると実感しています」と頼もしいお言葉。実際に重量が着実に増えています！

フードドライブ実施中！

期間中は施設内に専用のボックスを設置しています。是非ご家庭にある食品をお持ちよりください♪集められた食品はフードバンク京都に寄付されます。実施する店舗及び施設は下記をご覧ください。

- グルメシティ上桂店(常設)
- グルメシティ北山店(常設)
- グルメシティ嵯峨店(常設)
- ダイエー瀬田店(常設)
- ダイエー桂南店(常設)
- イオンフードスタイル東向日店(常設)
- イオンフードスタイル山科椥辻店(常設)
- KOHYO京都店(第3月曜～日曜)
- KOHYO北大路店(第3月曜～日曜)
- KOHYO上七軒店(第3月曜～日曜)
- マックスバリュ藤森店(第3月曜～日曜)
- アル・プラザ亀岡(常設)
- コープらくさい(第1土曜～日曜)
- コープ下鴨(第1土曜～日曜)
- コープきぬがさ(第1土曜～日曜)
- コープにしがも(第1土曜～日曜)
- くわの実保育園(常設)
- ファミリーマート桂西滝川町店(常設)
- ファミリーマート向日南淀井店(常設)
- ファミリーマート長岡京野添店(常設)
- ファミリーマート今里二丁目店(常設)
- 東山社会福祉協議会(常設)

対象となる食料品

- 未開封であること
- 賞味期限まで１ヶ月以上あること
- 常温保存が可能であること
- 製造者または販売者が表示されていること
- 成分表示またはアレルギー表示があること

※アルコール類・手作り品は上記条件に当てはまるものであっても対象外になります

ご寄付の仕方が選べるようになりました

フードバンク京都は完全ボランティア団体です。皆さまから寄せられたご寄付が活動の資金となります。
どうか皆さまのお力添えよろしくお願い致します。

●シンカブルのサイトからクレジットカードでご寄付

1）賛助会員(毎月自動的に寄付）一口1,000円
2）一回のみのご寄付

Syncable
https://syncable.biz/associate/fbkyoto/donate/

シンカブルで検索も出来ます。
シンカブルで検索→シンカブルのサイトを見つける→「団体を探す」→フードバンク京都で検索→「寄付する」を選んでください

●ゆうちょ銀行からご寄付

1）ゆうちょ銀行　　記号：14450　　番号：43891781　　ﾄｸﾋ)ﾌｰﾄﾞﾊﾞﾝｸｷｮｳﾄ

※ゆうちょ銀行以外の銀行から振り込まれる場合は下記口座をご指定ください。
【店名】四四八　【店番】448　【預金種目】普通預金　【口座番号】4389178

月刊経営情報誌『MASTERS』に掲載

今回、国際通信社が発刊している『MASTERS』8月号にフードバンク京都が掲載されました。この雑誌は、独自のリサーチをもとに全国の厳選した経営者を尋ねる特別企画『地域に生きる』がメイントピックの月刊経営情報誌です。今回はSDG's（持続可能な開発目標）をテーマとしたページでフードバンク京都を取り上げたいということで、早速移転した新しい事務所で取材をうけることになりました。

当日は、緊急支援依頼が数件入っており、どのようにして困窮されておられる家庭に、寄付された食品が届けられるのか、スタッフ四名が支援物資をアソートする作業を実際に見ていただきながらの取材となりました。

完成した紙面内でも触れておられますが、緊急支援とは役所や福祉施設などからフードバンク京都に入る依頼のことです。支援が必要な方の情報をもとに、現在の心身の状況に合わせた最適な食品を選び、箱に詰めていくアソート作業は、多分に想像力を必要とします。その方の現況と心境を思い、一番助かる食品は何か、何が入っていたら少しでも元気を出してもらえるか、そんなことを皆で話しながら約二週間分の食品を詰め合わせます。

取材に来られた女性は、そんな現場を実際に見学され、約四ページにわたって非常に丁寧に伝えてくださっています。フードバンク京都が掲載されたページはQRコードからご覧いただけます。ぜひご一読ください。

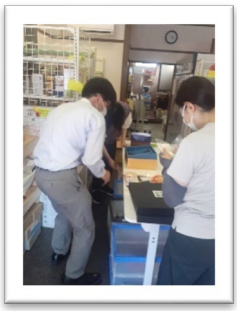
第一学院高校にて三名が講演

二〇二二年六月二十三日、フードバンク京都のスタッフ三名が、第一学院高校にて講演しました。当日は二十名程の生徒さんに、フードバンク京都の成り立ちや活動内容に加え、実際のアソート作業で気を付けていることや支援物資に込める思いなど、スタッフそれぞれがこのボランティア活動を通して感じるやりがいや考えを話しました。

この講演は、第一学院高校の先生から依頼があり実現したのですが、実はこの講演に先駆けて、担当の先生と校長先生が、フードバンク京都の農園に見学に来られていました。生徒たちに学んでもらう前に、先生自身が行動し、まず体験される熱心さもあり、講演から二週間後の七月七日には二名の生徒さんが先生とともに、事務所での仕分け作業に参加されました。当日はフードドライブなどで集まった大量の食品を、賞味期限ごとに棚にわけてもらいながら、実際にこの食品で助かる方たちがおられることを実感してもらえた貴重な時間となりました。

今後は、校内でフードドライブもしたいということで、講演からスタートした第一学院高校での更なる取り組みの発展に期待したいと思います。

フードバンク京都に寄せられる講演依頼は年を追うごとに増えています。コロナによって厳しい時代を迎えましたが、その中で少しづつ社会的関心を得て、誰かを助けたい、そんな思いを抱く人も増えた結果ではないでしょうか。悪いことばかりではない、と若いこれからの方たちに伝えるのも講演の大きな意義だと再認識できた活動となりました。



SOSの現場から

河本 恭子
フードバンク京都理事

皆さまからご寄付いただいた食品は、施設や子ども食堂、困窮者支援団体へお届けしているのに加えて、行政等からの要請にこたえて個人にもお届けしています。

行政や地域包括支援センター、ケアマネージメントセンター等に相談に来られた方で、手元にほとんどお金が無い、家に食べ物も無い、といった場合に、当面二週間分の食品をお届けしています。

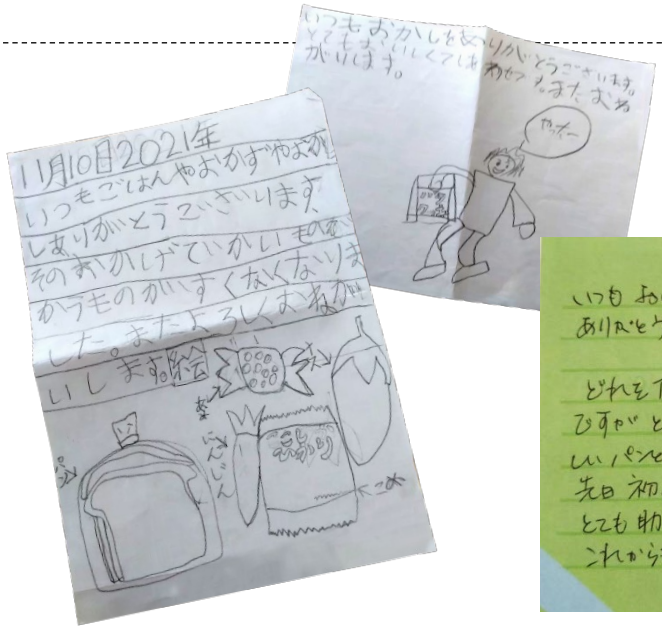
認知症が出てきたためにこれまで通り金銭の管理ができなくなった方、怪我や病気で仕事が続けられなくなった方などです。また、生活保護を受けておられる方は貯蓄が無いため、些細な緊急の出費ですぐさま生活が困窮するという場合も多いです。相談先で、生活保護、成年後見人制度、生活福祉資金貸付制度などを利用して、生活を立て直していかれるのですが、私たちは「制度の利用が開始されるまでの生活」を支える食品をお渡ししているということになります。

フードドライブが主な寄付元となっているので、私たちの扱っている食品は様々です。ですので、段ボール一箱分くらいの食品を準備するわけですが、依頼者の状況（調理器具はあるのか、自炊はできるのかなど）に応じて、食品を準備できるのが強みです。さらには、お届け準備担当（アソートチーム）のボランティアさんが、寄付してくださった皆さまのお心も届けられるよう、きめ細やかに準備してくださっています。そのため、お腹だけでなく心も満たされる支援品がお届けできています。

行政等担当者からの声

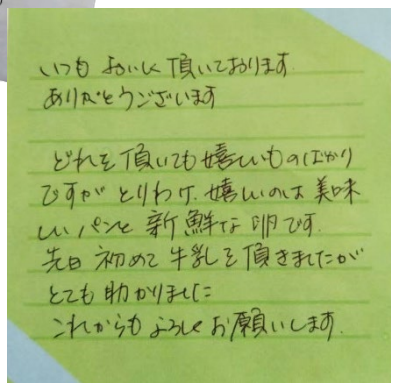
子どもさんが多い世帯で、衣類やおもちゃ等もご支援いただき、また今使用しているミルクの銘柄までご準備いただき、本当に感謝しております。ご本人たちも、非常に喜んでおられるとともに、とても安堵されている様子でした。この度はご支援いただきありがとうございました。

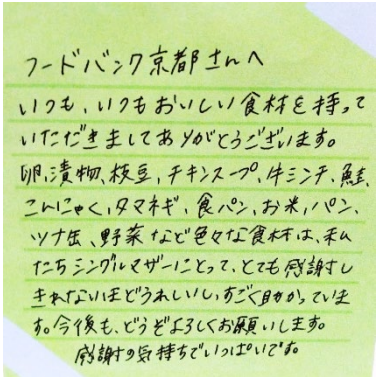
過日は私の担当の方のピンチの時に、段ボール箱いっぱいの食糧支援をいただきありがとうございました。
本人も「たくさんのレトルトとか、お菓子ももらえて嬉しかった」と話されていました。
私が福祉事務所からアパートへ運びましたが、ずしんと重かったです。お米四キロも入れていただいていましたが、本人宅には本人様のお話し通り、お米だけは二十キロ近くありました。それでもお米を含めて喜んでいただきました。
本日支払い日を迎え、保護費をお渡しでき、現金が手元にある状態になりました。
今後も低空飛行かと思いますが、一つの節目としてまずはお礼まで。
本当にありがとうございました。



アンケート

ご寄付いただいた食品は、福祉施設や困っておられるご家庭へお渡ししています。受け取られた方の声を一部ご紹介します。





活 動 実 績（2022年4月～2022年9月）

(1)施設などへの定期的な支援活動	
① 母子生活支援施設	3ヵ所/76回/3,271kg
② 児童養護施設・更生保護施設など	3ヵ所/72回/1,298kg
③ 子ども食堂	9ヵ所/54回/1,541kg
(2)支援活動団体への支援活動	
支援団体	5ヵ所/26回/1,042kg

(3)個人への緊急支援	
行政等を通じた個人への緊急支援	241回/4,697kg
(1)～(3)支援活動の合計	**469回 11,849kg**
(4)フードドライブ	
小売店(企業数5/店舗数21)と企業等の不定期フードドライブを含む	3,458kg
(5)農園による生産活動	
玉ねぎ、じゃがいも、茄子、ネギ、にんじん、トマトその他、季節野菜等	

助成金（2022年4月～2022年9月）

- 令和4年度京都市フードバンク団体による食品ロス削減に資する取組支援助成金
- 農水省令和3年度フードバンク支援緊急対策事業
- 京都市生活困窮者支援団体への活動支援事業

ご提供いただいた皆さま（2022年4月～2022年9月）順不同

- コストコホールセールジャパン株式会社
- 京都文化・芸術・スポーツ振興会
- 京都インターナショナルスクール(賛助会員)
- 国際ソロプチミスト京都
- お食事処 としぶん
- くわの実つむぎ会
- 株式会社塚腰運送
- 京都葵ライオンズクラブ
- 京都薫風ライオンズクラブ
- 京都紫明ライオンズクラブ
- 京都パレスライオンズクラブ
- 京都ロイヤルライオンズクラブ
- 立命館宇治高校
- フレンドマートG宇治市役所前店
- 中村くらしを見直す会
- パナソニックインダストリー株式会社 デバイスソリューション事業部
- Yohei Miyaguchi
- 矢野食品株式会社
- アイフル株式会社
- 公益財団法人京都市学校給食協会
- 株式会社麦の穂
- 株式会社クリニコ
- 株式会社オクペイント
- ローム株式会社
- 生活協同組合コープ自然派京都
- 京都夜回りの会
- 株式会社坂の途中
- 岸本農園
- 明石農園
- コプロ株式会社
- 川口酒造株式会社
- カルゲン製薬株式会社
- アミタホールディングス株式会社
- 山崎農園
- 株式会社テモテ
- 株式会社京ほっ
- 城陽市 まちづくり活性部
- 来迎寺
- みつ葉法律事務所
- 株式会社ブライトンコーポレーション
- 晴鴨楼
- 株式会社 美濃与
- 京阪ホールディングス株式会社
- 浄念寺
- パークハイアット京都
- 農事組合法人 田吾作
- 地球愛祭りin京都
- かみひとネットワーク

※その他、多くの個人さまからもご提供いただいていますが、個人情報保護のため伏せさせていただきます。

※塚腰運送さんは、絵のような危険っぽい運転はしません。

令和四年七月、フードバンク京都は遂にっ！新しい事務所に引っ越しいたしました！

これまでたいへんお世話になった旧事務所に別れを告げ、皆でえっさ、こらさと荷物を運びだし、最後に残ったでっかい業務用保管庫。素人のスタッフが運ぶにはあまりにもでかい。無理やん。

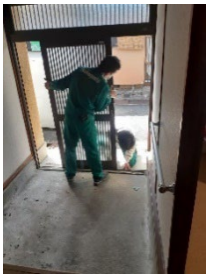
しかしっ、そこに、現れたスーパーヒーロー、塚腰運送さん！格安で新事務所までの移送を請け負ってくださいました。感謝感激。

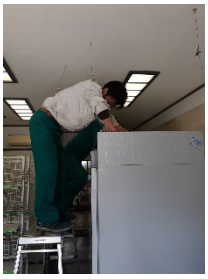
そして、その塚腰運送さんは、私たちフードバンク京都のパートナー企業にもなってくださいました。食材の大量寄付などがあった場合には保管場所を提供してくださったり、移送を手伝ってくださったり。いやぁ、ありがたや。

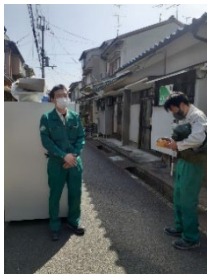
色んな方の協力があって少しづつ大きくなっていくフードバンク京都。これからも新事務所で頑張りたいと思います！

それでは、塚腰運送さんの雄姿と新事務所をぜひご覧ください！

【新事務所の住所】
フードバンク京都
〒615-8141
都府京都市西京区樫原平田町14-31







フードバンク京都のパートナー企業

Tsukagoshi Transport

株式会社 塚腰運送

アウトソーシング、電気工事、人材事業など、物流の枠にとどまらない、創業110年を超える老舗企業。

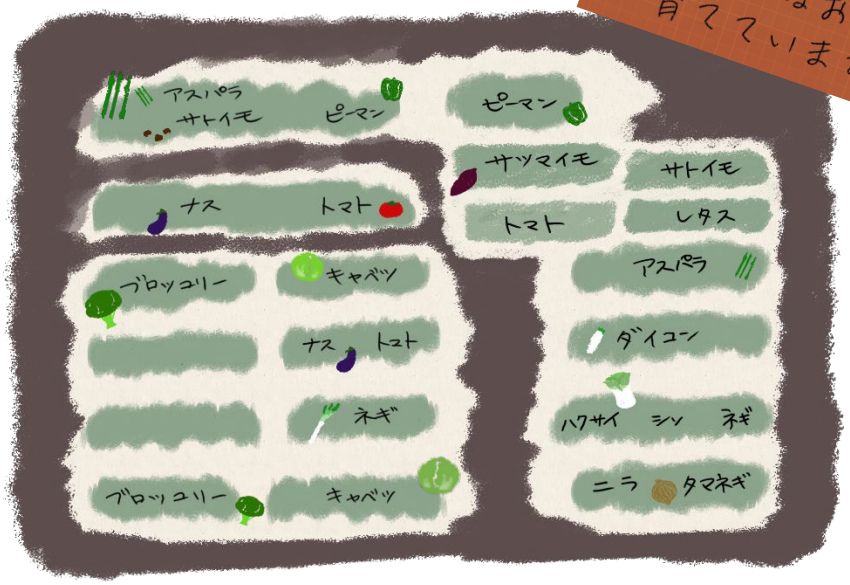
株式会社 シティ・エキスプレス

株式会社 シティ・エキスプレス

京都市内の宅配便、即日配達ならシティ・エキスプレス。断然お得な、引っ越し、買い物代行もお任せください！

9月 フードバンク京都農園の様子

今はこんなお野菜を育てています！



フードバンク京都にはボランティアスタッフが無農薬でお野菜を育てている農園があります。このコーナーでは、今育てているお野菜やスタッフをご紹介します。

畑メンバーをご紹介

「畑の時間」

フードバンク京都の活動に初めて参加させていただいたのは、2018年の春です。学生時代に保育を学んでいましたが、社会に出てからは保育の仕事に就くこともなく、好きなことをして暮らしてきた自分を振り返り、何か子どもたちの未来に役立つようなことがしたいな…と思っていたこと、前々から食品ロスに関心があったことなどから、インターネットで調べていて、フードバンク京都のホームページに辿り着きました。

当時、春の陽気に背中を押され、ドキドキしながら事務所に説明を聞きに行ったことを覚えています。

お話を聞いているうちに、自分自身生きていくのに精一杯なのに、人の為に何かをするなんて事が私に出来るだろうか…と心配になり、由美さん（理事長）にそう伝えたところ、「やりたい気持ちとやれる体力があれば充分です。」と笑顔で答えてくださり、その言葉は私の不安を吹き飛ばしてくれました。

フードバンク農園の野菜はほんのり甘みがあってとても美味しいです。それは皆の気持ちが詰まっているからだと思います。

時にはお喋りしながら賑やかに、時には一心不乱に黙々と・・・。作業に疲れたら空を眺めてちょっと休憩。みるみるうちに伸びる雑草と、負けずに育つ野菜や集まってくる虫たち。自然の逞しい生命力を感じながら過ごす畑時間は、私にとって癒しのひとときです。

編集後記

私がフードバンク京都を知ったのは、新聞に載っていた代表のインタビュー記事でした。「この道が私の進む道なんだと確信しました。」というようなことが書かれていて（感銘を受けたくせにうろ覚えって・・・）、読んだ瞬間に「いいなぁ！」と、声に出していました。自分の道を見つけはったんや、と本当に羨ましい気持ちになったのを今でも覚えています。

フードバンク京都のボランティアに参加するきっかけは人それぞれです。でも、困っている人の「力になりたい」という根っこの思いは皆一緒で、この「力になりたい」という思いは国や性別、年齢の垣根がないんだ、ということを、最近の国際色豊かなフードバンク京都から感じます。

先日、事務所に行くとそこはもう異文化交流センターのよう！何の隔たりもなく、協力し合って仕分けしてくれている光景に、ジーンとしてしまいました。

どんな芽が出てどう育つかはさておき、全ての人は皆「力になりたい」という一粒の種をもって生まれてくるのではないのかなぁ、とぼんやり思う、今日この頃です。（加藤 小真子）